

金沢マラソンに参加する 障害ランナーの特徴とニーズ

北陸学院大学 社会学科 田引ゼミ

調査の目的、内容(報告概要)

**目的:金沢マラソン2022、障害のある人の参加に係る
特徴やニーズ把握**

調査票は以下の内容で構成

- **障害ランナーの特徴(個人属性)**
- **障害ランナー対応への要望**
- **大会運営全体に関する評価**
- **自由記述コメント**

このうち、とくに障害ランナーに関係する部分を報告

(2022年大会とともに、一部2021、2019年大会の結果もあわせて示す)

調査方法

**調査票は、フィニッシュ会場で(多目的スペース利用時)、
感染対策を講じ、趣旨説明のうえ直接配布**

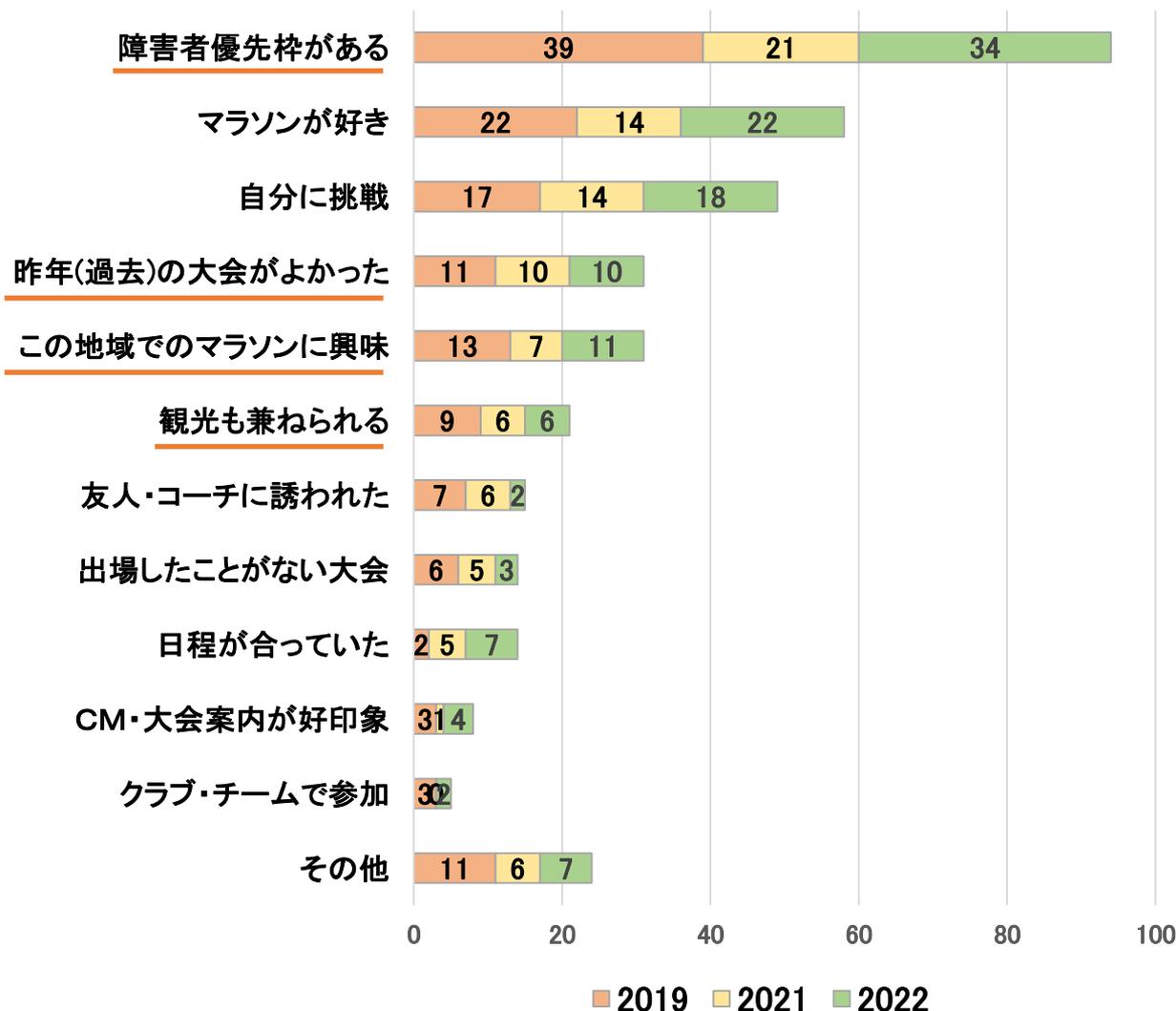
**回答・記入はレース後として
郵送で回収**

**配布対象(出走受付)88人
実際の配布数は73(一部伴走者含む)
回収41(回収率56.2%)※2022年大会**



無記名回答で、結果は研究目的および次年度以降の大会運営の改善に使用すること、統計的に処理され個人が特定されない旨調査票上に記した

結果1：障害ランナーの金沢マラソンへの参加理由



「障害者優先枠」が最も多い
 「過去の大会がよかった」
 (回答者の7割以上がリピーター)



- ・優先枠の存在意義は大きい
- ・一般枠とを各自が選択できる現在の形を継続

「この地域に興味」
 「観光も兼ねる」も多い



- ・大会参加のニーズの一部
- ・観光や交通、宿泊、飲食など、障害のある人に有用な情報提供や対応

結果2:回答者の基本属性

	2019	2021	2022	合計
障害種別				
肢体不自由	8人	4	4	16
視覚	3	6	6	15
言語聴覚	15	8	16	39
内部	6	2	4	12
精神	5	2	2	9
知的	11	4	3	18
伴走者等	1	3	1	5
居住地				
県内	22	6	13	41

- 障害は多様
- 県外者が多い



- だれもが参加できる金沢マラソン
- ニーズやサポートの調査、継続、蓄積

結果3：障害ランナー対応に関する意識(2022年大会、5段階評価)

	全体	肢体 不自由	視覚	言語 聴覚	内部	精神	知的
障害ランナー用の給水・給食テーブルがあった方がいい	2.80	3.19	3.40	2.23	2.33	2.22	3.12
障害別にゼッケンを色分けした方がいい	2.51	1.88	2.40	2.69	1.92	1.89	3.06
障害ランナーの表彰区分の設定を希望する	3.01	3.31	3.53	2.64	2.25	2.22	3.59

障害ごとに意識(ニーズ)が異なる



- ・1万人以上が走る全体の安全・運営管理も必要
- ・可能な範囲で対応、サポートを検討

結果4: 障害ランナー対応に関する意識(2022年大会、障害別)

	全体	肢体不自由	視覚	言語聴覚	内部	精神	知的
障害ランナー専用の多目的スペースに対する評価	4.59	4.58	4.57	4.62	4.45	4.67	4.40

自由コメント

- ・ (障害のため)着がえ等の時間、場所が必要なため助かる
- ・ 共生社会の実現への対応
- ・ 金沢マラソン独自の取り組み



- ・ 多目的スペースはどの障害でも高い評価
- ・ 多くの自由コメントも



- ・ 「スポーツ参加」に係る潜在的なニーズ
- ・ 継続的な対応・調査、蓄積

金沢マラソン2022 障害ランナー調査 全体まとめ

- 参加者の障害は多様
- 参加理由では「障害者優先枠がある」が最多
- 着替え等に使える専用スペースは前向きな評価
- 表彰やゼッケン、給水・給食などは、障害により異なる特徴

→スポーツ参加に係る潜在的なニーズ

スポーツ(ここではマラソン)の本質的な部分ではないものの、必要な部分

- 様々な事情がある人たちに配慮し、誰もが参加できる金沢マラソン
- 可能な範囲で障害ランナー対応、ニーズ調査などを継続、蓄積

ありがとうございました。